

山泉 進著

『平民社の時代』

—— 非戦の源流』

評者：梅田 俊英

本書は、初期社会主義研究会の中心人物の一人である山泉氏による著作である。初期社会主義研究会は「当初の予想に反して依然として会員は増え続け、百名をこえる会員をかかえる全国的な、いや海外の会員のことを考慮すれば国際的な研究会へと成長した」（あとがき）という。「社会主義」という考えに対して厳しいこの時代にあって、これはすばらしいことだと思う。本書はこの研究会の発展の中で生まれたものといえよう。また、2003年に出版された本書は平民社創立百年記念のものでもある。本書の構成を紹介しよう。

論文篇

第一部 観音峠をこえて－秋水と枯川と革也

第二部 日刊『平民新聞』発行始末記－幸徳秋水と「平民新聞会計報告書」

資料篇

一 平民社（有楽町）関係資料

二 日本社会党関係資料

三 日本社会党に関する内務省資料

文献ガイド

以上のように、本書は『初期社会主義研究』に山泉氏が執筆された論文が中心となっている。「資料篇」は既に復刻されている週刊『平

民新聞』などから集められている史料が中心である。これら明治社会主義関係の史料は、たとえば『資料 日本社会運動思想史』（青木書店）など、過去に蓄積があり、本書の資料篇に目新しいものはない。若い研究者ないし、これから研究に入る人々へのガイドといったものとして編纂されたのかも知れない。本書の最も価値があるのは何といても「岩崎革也文書」を参照しての記述である。これまでの通史でも「岩崎革也」は出なかったわけではないが、この人物をこれほど中心に取り上げた記述はなかった。本書の価値はここにある。

岩崎革也は、太田雅夫氏らを中心とした研究で人物像が明らかになってきている。それによって、岩崎革也とは明治社会主義運動を財政的に支えた人物だったことが分かってきた。本書は、遺族の岩崎長氏所蔵の「岩崎革也文書」を見て書かれているのである。論文篇では岩崎革也宛の幸徳や堺の手紙が引用されている。これによって平民社の活動がビビッドに分かる部分がある。本書にはその効果が反映されているのである。たとえば、幸徳秋水が岩崎に出した手紙によって、週刊『平民新聞』への弾圧の中で日刊紙を発刊することを考えたといった（115頁）くだりである。

第二部は、その日刊『平民新聞』刊行事情を財政問題から検討した論稿である。これまでの明治社会主義運動の研究では、運動の衰退を当局の弾圧と、イデオロギーの対立が原因ととらえていた。本書ではそれに加えて、財政問題という視野が導入されている。本書の目新しさはここにもあろう。これまででも、『平民新聞』ほかの紙面を子細にチェックすれば、運動の財政事情はそれなりに分かったが、「岩崎革也文書」に収録されている「平民新聞会計報告書」の現物が明らかになることによって、具体的に明治社会主義運動の財政事情がはっきりとつか

めるようになったのである。第二部の価値はここに

にある。本書の『平民社の時代-非戦の源流』という

いがたいが、「岩崎革也文書」を使用した記述は

高く評価したい。(山泉進著『平民社の時代-非戦の源流』論創社、2003年11月発行、406頁、定価3000円+税)

(うめだ・としひで 法政大学大原社会問題研究所兼任研究員)

●広い論域から応用問題として過剰富裕論を説く！

マルクス経済学の活き方

批判と好奇心

馬場宏二著 A5判・四四〇頁・三二〇〇円

批判精神と好奇心がこの本の執筆動機である。せつかくここまできたマルクス経済学を社会科学として活かそうとする。この二つの動機によって理論的思考に血を流かせようとする。外にはなかるう。そしてそれはマルクス個人の心的傾向にも合致するはずである。(はしがきより)

●「経済的不公正」と「文化的不正」の打開に向けての戦略を呈示

中絶された正義

「ポスト社会主義的」条件

ナンシー・レイザー著／仲正昌樹監訳 菊判 三六〇頁・三四〇〇円

男性中心主義の原理に挑戦してきたフェミニズムは分岐点に差し掛かっている。打開に向けてのプラグマティックな戦略。

●百名を超えるマルクス経済学者による研究論集、全一〇冊刊行開始！

SGCIME編

菊判 三六〇頁・三二〇〇円

●マルクス経済学の現代的課題 第一集

卷II 国民国家システムの再編

序 国民国家システムの再編 岡本英男
1 アメリカにおける規制緩和と福祉国家システムの再編 岡本英男
2 基軸国アメリカの軍事財政 渡谷博史
3 ドイツ統一と欧州統合―ドイツの目指した二重の統合― 藤澤利治
4 グローバル化と日本の資本蓄積体制 芳賀健一
5 再編を迫られる日本の国民国家―グローバル化市場化そして権化― 池上岳彦
6 金融構造改革の課題 長谷部孝司
7 日本経済の構造転換―地域経済の揺らぎ― 宮崎晃臣
8 バックス・アメリカナと「66年体制」との接点 苑志佳
9 中国における「開発体制」の転換―成長方式と労使関係― 李捷生

●あるべき福祉レジームのデザインと、それを実現してゆく主体を提示

良い社会を創る

21世紀のアジエンダ

高木郁朗・生活経済政策研究所編 四六判・三二〇〇円

① 「良い社会とは？」 高木郁朗
② 21世紀におけるサステイナビリティ 里深文彦
③ 持続可能な発展に向けた地球環境対応 駒村康平
④ 新しい福祉国家の役割 江原由美子
⑤ ジェンダー不平等を克服する―アンバウンドワークに焦点をあてる― 増田祐司
⑥ 21世紀の労働・雇用の課題 成川秀明
⑦ 持続可能な社会経済システムの構築 ナショナルセンターSの自己変革：AFL-CIOの字の連合改革 篠田徹

●好評発売中！

三三〇頁・三二〇〇円